

<史料紹介>

山口県文書館所蔵アーカイブズガイドー学校教育編（2）ー

山本明史・和田秀作・金谷匡人

山口県文書館では昨年度から、所蔵文書を学校現場での活用という観点で捉えなおし、授業等で活用しやすい形で学校現場に提供するという取り組みを開始した。昨年度の成果は、『山口県文書館研究紀要』第38号に掲載し、各学校へも配布した。前稿で述べたように、この取り組みは一過性のものとして終わらせるのではなく、継続して行うべきものと考えている。本稿はその続編である。

当館では、夏季休業中に学校教員を対象とした古文書活用講座を開催しているが、その参加者や学校現場から、「文書館の資料を授業で使いたいが、資料の掘り起こしには時間がかかる。文書館の側から情報提供して欲しい。」といった声や、「授業等で活用するためには、資料に読み下し等が欲しい。」との要望がよく寄せられる。これらを受け、本稿では、さらなる掲載資料の充実に努め、難解な資料については読み下しをつけるなど、解りやすい資料解説に努めた。

授業等での活用の際し、資料についての質問や活用方法についての相談があれば、ぜひ当館に問い合わせいただきたい。学校現場と情報を共有しながら資料の活用を進めることで、有効に学校教育に資することができ、また文書館の可能性も一層広がると考えている。

- ▶ 前稿での項目立ては東京書籍の中学校旧課程用教科書『新編新しい社会 歴史』に準拠したが、本稿では同社の新課程用『新しい社会 歴史』に準拠した。新旧の教科書で章立てが変化しているが、学習内容を検討した上で、前稿で使用したトピックの番号を新課程の項目表に当てはめている。本稿のトピックの番号は、前稿からの通番とした。
- ▶ 原稿執筆にあたっては、No.46・47を和田、No.48～55を金谷、No.56～75を山本が担当した。